

スマホで変わる ベイタウンシニアライフ

最近、街でスマホを持つシニア世代を多く見かけるようになりました。かくいう私（記者）もそのひとり、ごく最近ですが周囲からの圧力(?)で仕方なくスマホを持つことになりました。しかしスマホは難しい。かけるつもりもない相手に勝手に電話がかかったり、LINEで友達要請が来て何のことも分からず切ってしまうと失敗続きの毎日でした。

ところがこのスマホ、慣れてくると意外に便利。どこでも電話がかけられる(当たり前)だけでなく、他にもいろんなことができそうで、もしかすると老化でひからびた脳を活性化させ、コロナ禍で他人と会話することもままならなくなった中で、新しい人との付き合い方ができ、大げさにいえばシニアの生活に革命を起こすのではないかと思うようになってきました。

そこで今回は、スマホを持って楽しくベイタウンライフを実現させている3人のシニアにその秘訣を聞いてみました。スマホをどう使うのか悩んでいるシニアの方、必見ですよ。【松村】

最初はIさん(76歳)。Iさんは携帯電話を使っていたので、スマホを持つことに抵抗はありませんでした。携帯は現役時代に仕事でどうしても必要だったので、使っていたそうです。だからスマホもただ通話ができれば十分と思い、年配者用の「らくらくホン」にしました。今もそれを使っているそうです。

Iさんの使い方は、知人とのコミュニケーション用。といっても頻度がかなり高いようです。街を歩いていて気になったことや珍しいこと、思いついたことをすぐに知人にスマホで発信します。実際ベイタウンニュースでも彼のこの「思いつき」情報で多くのことを知りました。火事があったときや、イベントなどで必ず写真付きで情報を送ります。

もちろん他にもスマホでTVを見たり、お店のレジでスマホをかざして決済することにも使いますが、もっぱら使うのはこの情報発信。機能がたくさんあるスマホを持って使い方がわからず消化不良を起こすのは対極にある使い方です。ここまで来るとスマホはIさんにとっては手足のように動く情報発信のツール。手放すことなど考えられないそうです。

つぎはKさん(74歳)のスマホ活用術。Kさんが使うのはもっぱら写真の撮影。東北地方の郷里にクルマで毎月帰省しているので、生まれ育った故郷の景色を撮影してSNSに投稿しています。そのほか日常の出来事なども写真と一緒に記録してSNSに投稿。いわば日記のような使い方です。もともと機械いじりが得意なので、スマホでもいろいろな機能をためていて、最近はいよいよスマホを財布代わりに使ってその便利さを堪能しています。もっとも彼もスマホは高価な機種ではなく、少し古くなったシャープのものを長く愛用しています。写真が比較的きれいに撮れると感じているそうです。

写真は特に趣味としてカメラに凝ったりはしていなかったのですが、スマホを使うようになってからは構図などにも気を配るようになったそうです。スマホをやること

で写真にも興味が持てるようになり、新しい趣味が加わって毎日が楽しくなったような気がするとのこと。

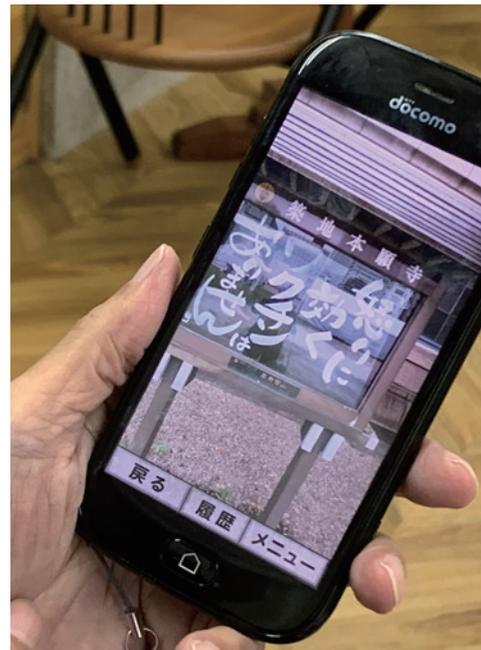
社交的で、外に出ることも多いので、スマホは外で写真を投稿したり、メモを録音したりをその場でできるのでとても便利に感じているそうです。スマホに使われるのではなく、必要な機能からだんだん使いこなして、今では生活の中でなくてはならない程のツールになっています。

Mさん(72歳)のスマホ活用。この人の使い方は少し変わっています。もともと凝り性のMさんがスマホを持ったのはごく最近。携帯電話も持ったことがなく、スマホも四六時中いつも電話に出なければいけないようでも持とうとしなかったそうです。

そのMさんが今スマホを使っているのは、古い友達との通信です。50年も前に高校卒業で別れた友人とのほぼ毎日の他愛ないおしゃべりを、LINEという無料の機能を使って短いメッセージ文のやりとりでしています。友人はMさんの故郷の田舎の山村に今も暮らしていて、そんな友人と古い子どもの頃からの同級生の噂話や、田舎の風景、趣味の話やは政治談義、世界状況、もちろんお互いの人生について語ったりしています。田舎に台風が来ていると天気予報で見れば、家主のいなくなった実家の状況を写真付きで伝えてもらったりもするそうです。これが70歳を過ぎたMさんの日課になり、少し大げさですがMさんの心の安定をもたらしているそうです。



もちろんこんなことはスマホでなく、電話でもできることです。しかし電話だとなんだか敷居が高く、もともとMさんのような世代は電話は用件を伝えるもので、お



しゃべりの道具にするには気が引けます。それがスマホだとベッドに寝転がって、ごく気軽に話すことができ、しかも連絡はLINEのメッセージという機能を使って、音声ではなく、短い文章をやりとりすることで行っています。これだと相手が電話に出られないときも言葉は届くし、友人から通信が来たときも慌てて電話にでる必要はありません。

さらにMさんはこのLINEのメッセージ交換を一種の日記のようにして記録しています。日記という少し緊張するし、三日坊主になって挫折感を味わうこともありますが、これだと友達との他愛のないやりとりの記録だし、気兼ねなく本音で喋ったことがそのまま記録になります。

といってもスマホの過信は禁物、Mさんは一度これで大失敗をしています。過去のやりとりの記録をLINEで開くと、なんと古いやりとりに付いていた画像が消えてしまっていました。LINEは写真などは一定期間を過ぎると消去されるのです。これに気付いたMさんは早速LINEのやりとりを保存する方法を調べ、今ではパソコンに過去のやりとりを写真付きですべて保存しているそうです。スマホ音痴だったMさんが使っているうちに必要にかられて編み出したテクニックと言えるでしょう。シニアのスマホにはこんな楽しみもあります。もっともMさんはこの友人との交換日記以外はまだスマホビギナーでそうで、いまだにLINEの使い方がわからず子どもや孫に笑われているそうです。

いかがでしたか。今回は高齢男性3人のスマホ生活を紹介しましたが、女性や若い人ではもっと楽しく、スマホを使いこなせているでしょうね。

フェアリーズ 国際コンクールでグランプリ

ベイタウンを拠点に活動するジュニアコーラス フェアリーズは、9月23～26日に晴海の第一生命ホールで開催された「第3回東京国際合唱コンクール」でグランプリを受賞しました。このニュースは新聞でも大きく報道されていたのでご存じの方も多いと思います。

このコンクールは日本で唯一開催される合唱の国際コンクールです。国際コンクールですから世界中から厳しい審査で選ばれた多くの合唱団が参加しています。室内、混声、同声など10の部門に分かれており、それぞれの部門1位でグランプリを競います。その中で最高位の1団体に与えられるグランプリを受賞したのですから大変な荣誉です。

さっそくフェアリーズを主催し、発足時から指導している森本真由美さん（18番街在住）にお話を聞きました。【松村】



– グランプリ受賞おめでとうございませう。今回の受賞はフェアリーズの歴史の中でも大きな出来事だったようですね。

ありがとうございます。児童合唱部門ジュニア（13歳以上）とシニア（18歳以下）の2つの部門に出場し、そこで結果を出せばとは思っていましたが、両方で1位金賞になり、更に「文部科学大臣賞」と「最優秀課題曲演奏賞」もいただけて、それでも充分過ぎるほどありがたかったのですが、更にグランプリを受賞したことは信じられないくらい驚きました。

– 受賞の知らせはどこで受けましたか。そのときはどんな気分でしたか。

発表はコロナの影響のためYouTubeライブで行われました。私は代表でホールに残らなければならず、電車で先に帰ったメンバーや保護者の皆さんは海浜幕張駅に到着したところで発表を見ました。フェアリーズの名前が読み上げられた瞬間、「きゃー!!」「やったー!!」と子ども達やお母さんたちが飛び上がって抱き合い、涙して喜んでくれているのを後に動画で見せてもらいました。みんなの嬉しそうな笑顔を見て私も初めて涙が出ました。みんなの喜ぶ顔が何よりも嬉しかったです。

– 今回はどのくらいの人数で参加したのですか。

ジュニアの部門は23人。シニアの部門も23人で延べ人数は46人になりますが、両方に出ている子もいるので、実際にコンクールに参加したのは27人でした。

– 大きなコンクールだと練習も大変だと思います。いつもベイタウン・コアで練習しているのですか。

コアだけでなく海浜打瀬小学校とベイタウン内マンションの集会室を使わせていただいています。メンバーは公立、私立、小学生から高校生と幅広く、通常はみんな部活や塾、習い事で練習に全員が揃うことは殆どありません。ただ今回は幸運なことに

9月に中学がコロナで部活休止になっていたので全員が集まって練習できました。コロナで幸運というのも変な話ですが、今回は他にも幸運なことが沢山あり、導かれているような不思議な感じでした。

– フェアリーズのメンバーはベイタウン外からも多く来ているのですか。

はい。はじめた頃は全員がベイタウンの子どもたちでしたが、最近はベイタウンの外からも参加しています。人数比だと3:2の割合でベイタウンの子どもたちが60%くらいだと思います。

– 保護者の皆さんも今回の受賞は喜ばれたでしょうね。

そうですね。保護者の皆さんは、本当に温かく、素晴らしい方ばかりです。それぞれが得意分野でお力を貸してください。私自身、お母さん達から多くのことを学ばせて

ていただき、また助けてもらい、感動をもらっています。

コロナになってからは、苦しいこともたくさんありましたが、お母さん達が励ましてくださり、私が気弱になりそうな時も力強く支えてくださいました。心から感謝しています。コロナ禍でのコンクールは通常の何倍も大変でしたが、『ちゃんと結果を出して恩返しをしよう』と心に決めていました。それがかなって本当によかった。

– グランプリのトロフィーは「巨大な音叉」なんですね。

「世界で最大の音叉」なんだそうで、日本音叉研究所が製作した特注品です。実際に叩くとA（ラ）の音が1分間鳴り続いています（写真）。第1、第2回目のグランプリは外国の団体が受賞したので、日本にあるのはこれだけです。珍しいのでメンバーもみんな一回ずつ叩きました。（笑）

– これからの抱負をお聞かせください。

賞の重みやありがたみはもちろん感じていますが、今もこれからも一番大切なのは「音楽を楽しむこと」。

普段の練習では幼稚園児から高校生ままで、みんな元気いっぱいです。休憩時間になると全力での鬼ごっこに、けがをしなやかとヒヤヒヤしていますよ。でもそんな風に明るくて元気なみんなだからこそ、グランプリをもらえたのだとも思います。

「子どもたちの歌声は尊くて素晴らしい」ずっとその思いを守り続けて来ました。これからも同じです。



プロムナードに新しいカフェ

ヨーロッパの街並みをイメージしたベイタウン。通りには当然カフェが似合います。ベイタウンのプロムナードにはお洒落なカフェがもっと欲しい。そう思っている人は多いでしょう。その願いが実現します。文字通りの「カフェ」が新規出店です。こんな楽しいニュースはそうありません。早速カフェのオーナーを取材してきました。

新しくオープンするのは「Carmin」（カルマン）という店名で、来年2月にプロムナードとバレンタイン通りが交差する11番街の角にオープンします。お店のコンセプトは「パリの街角にあるコーヒーの美味しいお店ースペシャルティ珈琲のお店」。Carminはフランス語で深紅の意味があり、赤をポイントに使ったお店だそうです。またコンセプトにある「スペシャルティ珈琲」とは「SCAA（アメリカスペシャルティ珈琲協会）の厳密な定義にのっとった、流

通量としては全体のおよそ5%～6%しかない最上位の豆」を使ったコーヒーとのことで、いかにもヨーロッパの街角のカフェをそのままベイタウンに持って来たようなお店です。お店のデザインは一流著名人などの経営するお店を数多く設計した事務所が行っています。

オーナーの今井さんによると、開店場所としてベイタウンを選んだのは、もちろん街並みが好きなことと、カフェのコンセプトを理解してくれるお客様が多いと思ったからだそうです。本格的な美味しい珈琲、紅茶などの他に、サンドイッチやピザ、各種デザート・菓子などの食事もあり、テイクアウトもできるそうです。



幕張ベイパーク耳鼻咽喉科

今月は、幕張ベイパークメディカルセンター内のクリニックを紹介するシリーズの3回目として、幕張ベイパーク耳鼻咽喉科を紹介します。【金】

院長の大熊先生は、千葉大学医学部を卒業後、千葉大学耳鼻咽喉科医局で、鼻アレルギーの診療・研究に取り組んだ後、千葉大学病院などで経験を積んできました。

実は記者は花粉症やハウスダストのアレルギーに悩まされていることもあり、インターネットで大熊先生がアレルギーを専門に研究していたことを知って取材を兼ね受診しました。

清潔で快適な待合室にいますと、大熊先生が一人一人を丁寧に診察しているのが分かります。クリニックのコンセプトは「分かりやすい説明を心掛け、病気について理解してもらい納得して通院して頂く」ですが、待ち時間が長ならないようにバランスをとっている様子が伝わってきます。

大熊先生はがんセンターでの勤務も長かったので、超音波診断装置による首の腫瘍の診断も得意としています。また医院では歯科との連携を掲げていますが、その理由を質問したところ、鼻は口と繋がっていて、例えば副鼻腔炎は虫歯が原因であることもあるからだそうです。無呼吸症候群の治療でもマウスピースの製作など、連携できる部分は多いようです。

医院には最近になって外耳炎で受診される方が増えています。これはコロナ禍に

なってから、テレワークで耳の中に入れて装着するカナル型イヤホンの影響だそうです。カナル型は密閉性が高いので音漏れも少ないほか、音が聴き取りやすいことが特徴です。しかしカナル型は長時間使用すると耳に違和感を覚える場合もあり、痛みやかゆみ、そして腫れて聞こえにくくなる事もあるので注意が必要で、長時間の使用にはヘッドホン型がお勧めだそうです。

大熊医師は、大型病院に勤務している時、患者の悩みに向き合うことが出来ず、流れ作業のように診察をこなすことにもどかしさを感じていました。そんなことも開業を思い立った理由になりました。これで打瀬・若葉地区の耳鼻科は2つになりましたが、ベイタウンとベイパークのこれからの街の規模を考えると、まだ少ないのかもしれない。

取材後記

ベイタウンよりほぼ四半世紀遅れて開発が始まった幕張ベイパークの取材をつづけていると、ベイタウンの開発時にこんなものがあつたらと思うことがよくあります。

都市には住宅、店舗、オフィス、文化施設、工場など、様々な空間用途があります。一つの建物、街区、地区などの中で、これ

らの様々な用途の空間を混在させることをミクストユース（複合利用）というそうです。

幕張ベイパークは、街の中で生活が完結するこの「ミクストユースの街づくり」を謳っています。メディカルセンターも、このようなコンセプトから多様な診療科の設置を目指し、かなり早い段階からクリニックの誘致活動を行ったことで、当初の構想を実現させることができたそうです。

観光などでヨーロッパの町を訪れた際、都市の規模は小さいのに街の中がとても賑わっていて、楽しい雰囲気にも包まれている様子を目にされた方は多いと思います。幕張ベイタウンも街開き当初はそんな構想を持っていました。27年後の今は、学習塾、クリーニング店、美容院にリフォーム店がお店の大半を占めています。食事が出る場所も非常に少ないのが現状です。ミクストユースの考え方はベイタウンの今後にも役立つのではないかと思います。



〒261-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-38

幕張ベイパークメディカルセンター 2F

TEL: 043-205-4840

診療時間: 月、火、水、金 9:00 - 12:00

15:00 - 18:00、土 09:00 - 12:00

休診: 木、日・祝

第29回 ソフトボール大会 (秋季) 優勝 BB9!

打瀬地区スポーツ振興会(内田会長)の主要な行事としてベイタウン商店街の協賛を頂き、第29回ソフトボール大会が10月10日(日)に美浜ふれあい広場の3面のグラウンドを使用して盛大に開催されました。当日はまさかの雨のスタートでしたが、途中から秋晴れの好天に恵まれ熱戦が繰り広げられました。

今回は自治会連合会、商店街のホームページ、ベイタウンニュースにも募集告知を協力して頂き、9チームがエントリー、ベイパークからもB-Pamsと新たにスカイ

タワーズが初参加、大歓迎です。

毎回運営に全面協力のベイバスターズの原さん、濱田さん、コーチの皆様の活躍で、コロナ対策、危険防止など万全の対応を整えることができ、今回も良い大会が開催されたことを感謝いたします。

決勝に進んだのはブエナリージ(ブエナテラーサの理事会メンバーで結成されたチーム)とBB9(少年野球ベイバスターズのOBチームで来春は社会人、全員就職内定との事)。両チームとも優勝経験があり、攻守互角の戦いでしたがブエナリージはメ

フロインツ 秋のサッカー体験会

ベイタウンや幕張地区で活動しているサッカーチーム「フロインツ」は、11月14日(日)、21(日)の2日間、打瀬小学校にてサッカー体験会を開催します。対象の学年は小学1年生~4年生で、初心者から経験者までサッカーに興味がある子供たちの参加を広く受け付けています。

フロインツは発足35年の歴史をもつ地元のサッカーチームで公式戦の参加はもちろん練習試合も多く行っています。体験参加希望はフロインツ公式HPより

<https://froints-utase-makuhari.jp/jimdofree.com/>



ウインターコンサート出演者募集

出演日: 2021年12月19日(日)

10時開演予定

場所: ベイタウン・コア音楽ホール

年末恒例のコンサートです。今年もコロナ感染防止のため、公民館の利用制限に基づいた定員、ドア開放で演奏者観客ともに、各部入れ替え方式で行います。

皆さまのご応募お待ちしております。締め切り日が迫っています。早めのお申し込みをお願い致します。

締切: 2021年11月13日(土)

(定員になり次第締め切らせていただきます)

申込先: akibakrym@yahoo.co.jp (秋場)

ンバーお2人が準決勝で負傷。決勝は欠場。BB9の若さと熱い声援に12-9で惜敗しました。

優勝したBB9には社会人になってもベイタウンのコミュニティのためにも次回大会以降も参加して欲しいと願っています。

次回30回大会(4月予定)が益々参加チームが増え、大会が盛り上がることを願っています。(スポーツ振興会筆)



写真上は優勝したBB9、右は準優勝のブエナリージチーム



つどいまなびつなぐ

ベイタウン・コア / 公民館通信

●年内の主催（共催）講座

ひとあし早く書初めしよう

日時：11月28日（日）13：00～15：00

場所：打瀬公民館アトリウム

対象：小中学生 抽選10名

講師：打瀬公民館長 石田邦治

※受付 11月14日（日）～11月17日（水）

ぱくぱくキッチンクラブサイエンス編

「食べ物の不思議を探ってみよう」

日時：12月5日（日）10：00～12：00

場所：打瀬公民館講習室

対象：小学3～6年生 抽選10名

講師：千葉市食生活改善推進委員（ヘルスメイト）のみなさん

※受付期間 11月16日（火）～11月24日（水）

大人の折り紙教室～来年の干支 寅を折る～

日時：12月15日（水）13：30～15：30

場所：打瀬公民館工芸室

対象：折り紙経験者（折図を見て折れる方）抽選8名

参加費：教材費880円（A・B2セット分）

※どちらか一方でも可（440円）

講師：打瀬公民館職員 藤谷多恵子

※受付 12月1日（水）～12月7日（火）



Aセット



Bセット

11月27日（土）寺子屋工作ランド

「やじるべえ」

日時：11月27日 第4土曜日 午前9：30～11：30

場所：ベイタウン・コア工芸室

今月はベイタウンにもたくさんあるドングリの実をつかって「やじるべえ」をつくりまします。

持ってくるもの：クレヨン、サインペンなど

参加費：50円（保険料）

親の「しゃべり場」

小・中学生のお子さんをお持ちの保護者を対象に、子育てについて少人数グループで話し合います。日頃子どもと向き合っていること、地域のこと、気分転換等…何でも話せる会となっています。何かしら解決の糸口になるかもしれません。

参加されます方は手洗い、マスク等のご配慮をお願いします。また、連絡無く中止となる場合がありますこと、ご了承ください。

日時：11月25日（木）10時～12時

場所：ベイタウン・コア 講習室

キュービックカフェ 11月・12月のイベント・ワークショップ



毎月第2土曜日はキュービックの日！『キュービックマルシェ』

<11月> 11/13（土） <12月> 12/4（土）・12/11（土）2週に渡って開催！

11:00～16:00 コミュニティスペースにて。

※「例のパンや」さんも出店予定です。

検温・消毒・マスクの着用にご理解・ご協力ください。
イベント最新情報はキュービックカフェホームページをご確認ください。



イベント詳細・お問い合わせ：キュービックカフェ

<https://www.cubic-cafe.com/>

VR 認知症体験会

社協高齢者福祉委員会 打瀬公民館 共催事業

目的：認知症を取り巻く諸課題を、体験を通して当事者視点で考える。

日時：11月30日（火）14：00～15：30

場所：打瀬公民館ホール

対象：成人 先着30名

協力：株式会社シルバーウッド

※受付 11月8日（月）～（先着）



参加者が実際にゴーグルを装着して、VR体験します。認知症になっても、幸せに暮らせる社会にするために、参加者自身がどのように行動するべきかを、グループで話し合います。

●緊急事態宣言の解除に伴う対応について

・21：00閉館

・アトリウム自習スペース開放の再開

※飲食を伴う活動は、実施できません。なお、手指消毒、換気、マスク着用については、引き続きご協力をお願いします。



わくわくおはなし会

11月のおはなし会は完全入れ替え制の2回公演

日時：11月20日（土曜日）

時間 1回目：10時から 2回目：11時から

プログラムは各回同じ内容、1回45分程度の完全入れ替え制

場所：ベイタウン・コア講習室

定員：各回10名（感染防止の観点から十分な距離を取らせて頂きます。マスク着用でご参加ください）

ご好評につき2回公演としました。感染症対策として、予約・定員制となりますので、ご参加希望の方は下記メールアドレスにて、代表者のお名前・ご参加人数（お子様の場合は年齢も）・ご希望の時間を明記の上、お申込みください。年齢制限はありません。

皆さまに安心安全にご参加いただけるよう、細心の準備をして開催させていただきます。

※最新情報はブログでご確認ください

ブログ更新中・見てね** <http://blog.livedoor.jp/chibawaku/> **

◆お申込み・お問合せ先◆ waku2book@gmail.com

第206回ファティオリの会

日時：11月28日（日）午前9：30～

場所：ベイタウン・コア音楽ホール

フルコンサートピアノ「ファティオリ」の演奏やその他の楽器の演奏をして頂きます。ただし、今回も新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、歌唱、管楽器演奏は行なえません。また入場人数の制限、演奏中も換気のためホールドアを開放など新しい形での開催となります。担当者の指示に従ってご参加頂きますようお願いいたします。非公開でのご利用も受け付けております。状況により中止の場合もあります。

最新の情報は、<http://baytown-core.net/top.html>をご覧ください。

申込締切：11月21日（日）

担当者 青木 tomotakamoe0526@gmail.com

11月のベイタウンかふえ ～人との繋がりは元気の素～

11月10日（水）13：30～16：00（いつでも出入り自由）

地域連携センター（打瀬公民館：コアの横）で開いています。

11月も生のジャズピアノ演奏とおいしいコーヒーを用意してお待ちしております。

2回連続企画：薬剤師さんがイヤホンや集音器の話を5～10分程度します。アンケートをその時にとり、それをもとに12月のかふえで皆さんの困りごとに答えます。聴力に不安のある方々や、関心のある方は是非ともご参加下さい。

問い合わせや、連絡等がありましたら、

うたせ認知症を考える会 中澤（TEL：211-0588）までどうぞ。